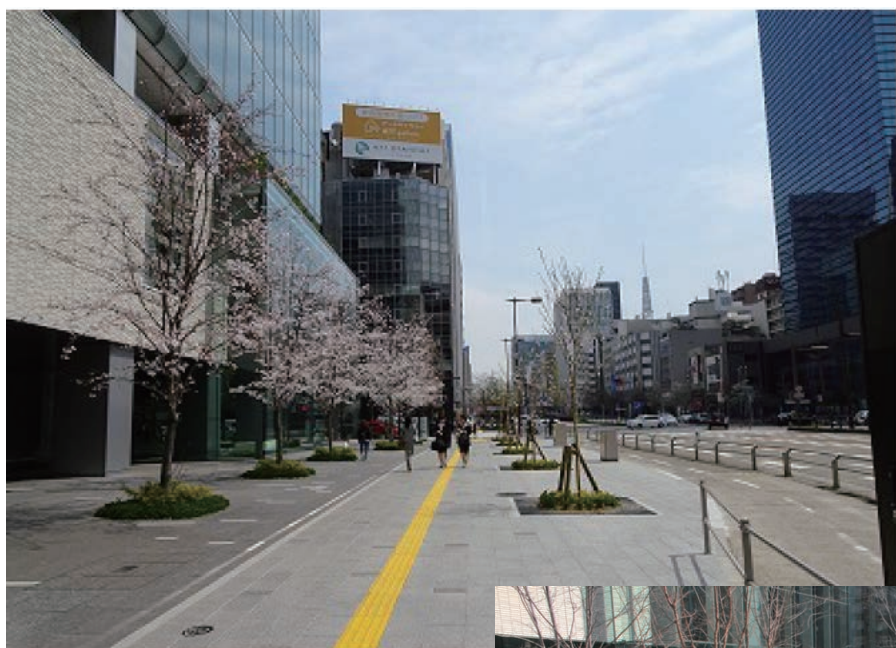


桜通の歩行者空間再編計画



桜通開通80周年記念事業 実行委員会

「桜通の歩道」の現状課題

現在の桜通の歩道においては、街路樹の生長とともに、様々な課題が見られる。

現状の課題

- 植栽が繁茂した状況となり視界を遮っている
- 照明柱の老朽化、歩道照明が繁茂した樹木で歩道を照らしていない
- 植栽帯の幅が広いため、狭い歩道となっている
- 防護柵、標識が多く煩雑な印象、等



女性80人ワークショップ

桜通の沿道には女性が多く働く企業がオフィスを構えるほか、周辺に小学校も立地することから、桜通の魅力、あるべき姿、目指すべき方向性などについて様々な立場の女性の方にご意見をいただき、再編方針に反映していくため、女性80人ワークショップを開催した。

ワークショップ開催日時：平成29年5月31日(水)
13:30～16:30

参加者：女性81名

桜通沿道企業で働く会社員、名古屋市地域女性団体
連絡協議会、桜天神社など、様々な立場の女性の方々



■グループディスカッションの様子



■発表の様子



■終了後の集合写真

桜通りの再編方針

上位関連計画及び現況調査、女性80人ワークショップによる利用者意見等を踏まえ、再編にあたってのコンセプト・デザイン方針・デザイン手法を決定した。

コンセプト

一年を通して「桜」を感じられる道づくり

デザイン方針

統一感のとれたデザイン(トータルデザイン)により、「桜」の優美さを表現し、桜通のイメージアップを図る

デザイン手法

1. 風景をつくる効果的な桜の配置

- 適切なゾーニング設定を行い、目指す風景に合わせた桜の配置、及び既存樹の整除
- 区間全体を通して長期間桜を鑑賞できる、桜の樹種の特徴を捉えた植栽計画
(ソメイヨシノを基準とし「早咲き」「ソメイヨシノと同時期」「遅咲き」「秋咲き」の桜を区間全体に配植し、西側並びに東側から中心エリア(栄地区)に向かって桜前線が進むように植栽する)
- 植栽のトータルのマネジメント

2. 統一感のあるデザイン

- 歩行者空間を拡充し、働く人、訪れる人が風景の一部となる憩い空間のデザイン
- 舗装、付属施設やサイン計画などのトータルデザインをルール化(デザインコード、カラーコードの設定)
- 桜通の個性を表現する桜のデザインモチーフの設定

3. 桜通を体験することで、愛着が生まれるまちづくり

- VI(ヴィジュアルアイデンティティ)による桜通一帯のブランディング
- オープンカフェ等の社会実験を効果検証し、計画に反映
- 地域住民主体のエリアマネジメントによる都市の魅力向上
- ライトを活用した魅力の演出

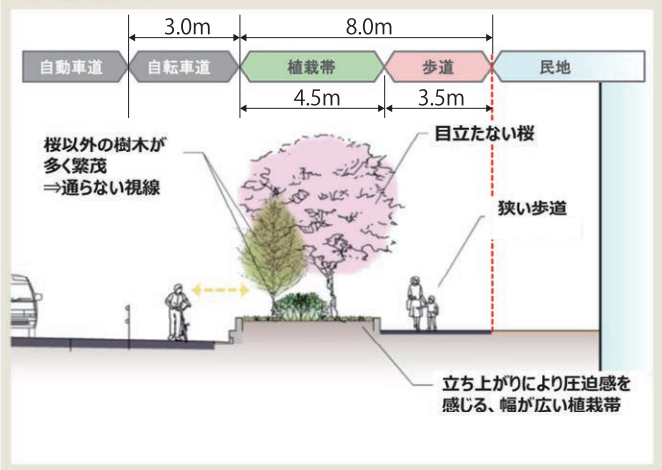
空間再編の考え方

桜通周辺の交通特性を考慮し、下記の考え方に基づき歩行者空間の構成を定めた。

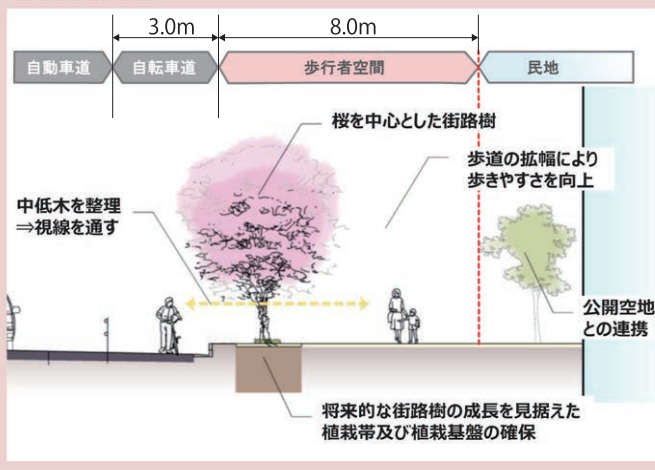
- 公共利用として、バリアフリー化された歩道とするため、車椅子同士がすれ違うことのできる幅員を確保する。
- 単なる歩行空間としてだけでなく、名古屋市中心部としてのにぎわいやくつろぎを感じられる空間とするため、余裕のある歩道幅を確保し、沿道民地に公開空地が整備されている場合には一体的な空間形成など公開空地との連携に配慮する。

利用者の歩きやすさや休憩スペースを確保するため、歩行者空間の横断構成は、歩道を圧迫していた植栽柵を撤去し、現在の3.5mの歩道幅員よりも余裕のある歩行者空間を確保する。また、植栽柵の撤去に伴い中低木を整理し、桜を中心とした街路樹とする。また、沿道民地の公開空地と連携した歩行者空間を整備していくにあたり、後から歩行者空間を再編整備する場合は、公開空地と歩道が一体的となる工夫が必要である。

◆整備前



◆整備後



舗装

舗装は、歩行者空間として安全性やバリアフリーなど歩きやすさを確保する必要がある一方で、デザインや施工・維持管理の観点も考慮し、基本的な考え方を決定した。

材料	石材及び質感の異なる平板の舗装材を確認し、天然石の風合いを持つソフトな質感の透水性のコンクリート平板を採用する。
サイズ	管理上、汎用性の高いサイズを基本とする。
色味	濃灰色、薄灰色、白系の3色を確認し、薄灰色を主体とし濃灰色をアクセントに取り入れることとする。
貼り方	桜通の名称の由来ともなっている、桜通のシンボルである桜天神境内の石舗装と同じ歩行者の進行方向とすることで、通りに格をつけると共に、桜通らしさを表現する。
柄パターン	桜をひきたてるシンプルな柄パターンを基本とする。長い距離を飽きずに歩けるよう、アクセントにより変化を加える。



桜天神の舗装

歩道照明

歩道照明の役割として、夜間の歩行者の安全性を確保できる明るさを確保し、昼間の景観形成や今後の歩道空間の利活用しやすい配置が求められることから、「明かり機能」「空間への配慮」「景観」から基本的な考え方を決定した。また、ライトを活用した魅力の演出として、単なる明かり機能だけではなく、沿道建物や道路空間と一体的な景観の一要素として歩道照明の再整備を行う。

明かり機能	・通勤などで夜間でも多くの歩行者が利用することを踏まえ、歩行者の安全性に配慮した十分な路面の明るさを確保する。 ・幅員8mを歩行者空間として活用していくため、均一的な照度を確保できるよう照明を配置する。
空間への配慮	・幅員が広いという特性を生かすため、開放的な空間を圧迫しないような配置・デザインに留意する。 ・将来的に人々の憩いの場や滞留空間の整備やにぎわいの創出を図っていく上で、歩道空間の利活用がしやすい配置とする。
景観	・オフィス街という沿道特性と、「桜」を感じられる道づくりというコンセプトを踏まえ、桜通の風景の一部として桜を引き立て、周辺景観や現代的な建物との調和に配慮する。 ・桜通としての一体感の形成や沿道の公開空地との連携を図るため、既設の付帯施設や公開空地との調和に配慮する。

休憩施設

歩行者空間を拡充し、働く人、訪れる人が風景の一部となる憩い空間のデザインの要素として、歩行者が桜通で憩えるような休憩スペースを確保する。

休憩施設は、休憩や飲食、打合せ等の多様な利用方法ができるよう、背もたれ付きとテーブル機能付きのベンチを組み合わせた配置を検討する。また、休憩スペースは、花や緑を感じられ、将来、高木が枝を張った時には緑陰のあるくつろげる空間になるよう、2本の高木の間に配置する。

社会実験の実施

歩行者空間の新たな利用形態を提案していくうえで、沿道の公開空地へ無料の休憩施設を設置し、休憩施設の利用状況や利用者のニーズを把握するための社会実験を行った。

日程・場所：平成29年10月14日（土）桜通本町交差点北西側（長者町糸びす祭りに合わせて開催）

実施内容：テーブル・椅子などの休憩スペースの提供と、簡易な飲食等の販売



■社会実験の様子

ゾーニングと桜の配植計画

ゾーニング

桜通には、名古屋城および熱田神宮方面につながっていた「本町通」や、名古屋市内の中心的な繁華街である栄地区と連続した「大津通」が交差している。この2つの南北の大通（本町通及び大津通）との交差点部周辺ゾーンは、桜通の魅力を多くの人に感じてもらいにぎわいの連鎖を生むことが期待されるため、「桜スポット」として重点的な整備を行う。通りの特性を踏まえ、「本町通」の交差点は「桜スポットシンボルゾーン」とし、「大津通」の交差点は「桜スポット交流ゾーン」とする。その他のゾーンは「一般部」として、桜を感じられる快適な歩行者空間として整備を行う。

桜の配植計画

桜の配植計画は、中部でも桜の代表としてなじみのあるソメイヨシノを基準とし、「早咲き」「ソメイヨシノと同時期」「遅咲き」「秋咲き」の桜を区間全体に配植し、西側並びに東側から中心エリア（栄地区）に向けて、桜前線が進むよう植栽する。



桜以外の高木植栽

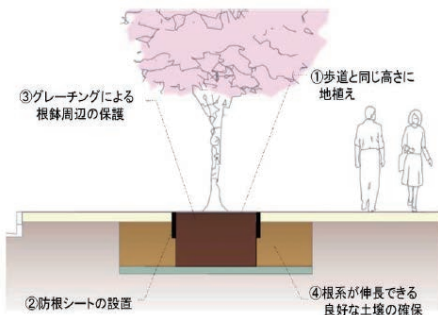
一般部の交差点以外の歩行者空間において、四季の変化や魅力を演出し、緑陰により快適な歩行者空間を形成するため、桜以外の高木の樹種を配植する。配置する樹種は①種類・花、②樹形、③樹高、④地域性、⑤維持管理の観点から選定を行った。

＜選定した樹種＞



植栽基盤

歩行者空間を確保するため、既存の植栽樹は撤去し、地植えを行うことを基本とする。地植えの事例において、根上がりが発生し、歩道面が凹凸となって歩行の妨げとなる課題があることから、根上りを防ぎ、地面に根を伸ばすことができる路盤とする。



地域との連携に向けて

歩行者空間の再編により、にぎわいのある桜通を実現するために、桜の植栽等の再編による快適な歩行者空間やオープンスペースの創出と、地域と連携した歩行者空間の利活用を一体的に進めていく必要がある。そのため、桜通の目標像を共有しながら、沿道の事業者やまちづくり団体によるオープンカフェの設置など、幅広く地域との連携のあり方を検討していくことが重要である。

今後の桜通の歩行者空間の再編と合わせた地域との連携のイメージを以下に示す。

－ 桜通のエリアマネジメントの推進 －

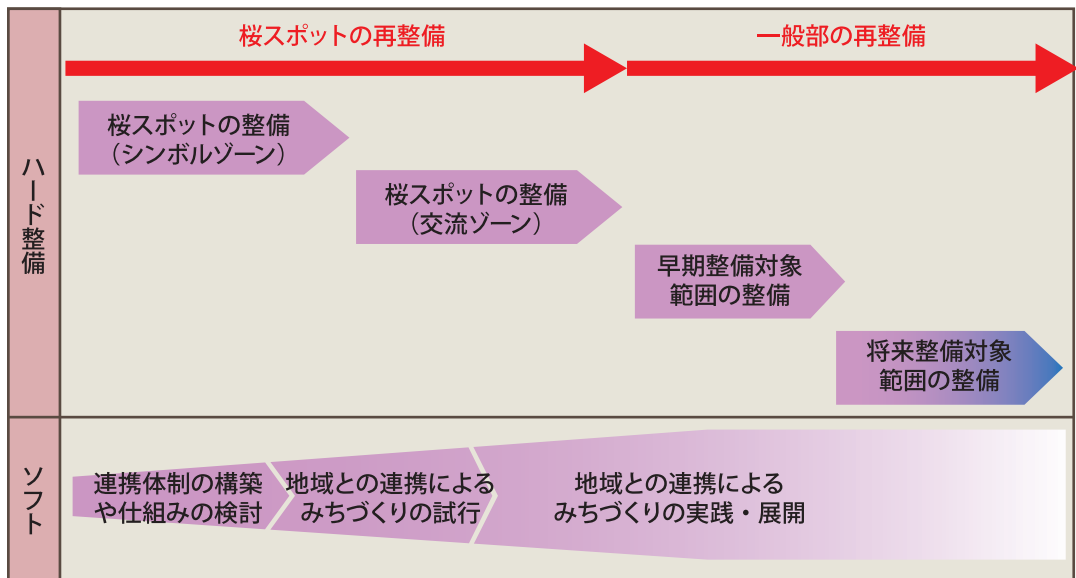
官民連携によるにぎわい創出に向けて、民間事業者やまちづくり団体が参画する協議会を設立し、地域と連携した公共空間の有効活用と維持管理などの総合的な桜通のエリアマネジメントを推進する。

ベンチ等のストリートファニチャーの設置	錦二丁目まちづくり協議会などのまちづくり団体との連携により、地域のアイデアを取り入れたベンチ等のストリートファニチャー設置を進める。
オープンカフェの設置	エリアマネジメントの取り組みのひとつとして、民間事業者によるオープンカフェの設置を進める。
歩行者空間を活用したイベント実施	沿道の公開空地等とも連携し、歩行者空間のオープンスペースを活用した地域主体のイベントを実施する。
桜通のブランディング	沿道の店舗等と連携してファサードや看板等のデザインコントロールなどによる桜通のイメージのブランディングを進める。
プランターの設置による花と緑の空間づくり	休憩施設やオープンカフェの周辺を中心に、地域で管理するプランターを設置することなどにより、花と緑の空間づくりを進める。

整備スケジュール

ハード整備は、再編によりにぎわい創出をはじめとした高い効果が期待されることから、重点的な整備を進める桜スポット（シンボルゾーン、交流ゾーン）から進める。中長期的に、一般部の早期整備対象から段階的に整備を行い、実際の効果を検証しながら柔軟に整備を行うものとする。

ソフト整備はハード整備と並行して、体制構築や活用可能な仕組みの検討から進め、「みち」と「まち」が共に育つくみづくりを展開していくことが望ましい。



「桜通の歩行者空間再編計画」の検討体制・プロセス

平成29年2月に、「桜通」開通から80周年を迎えたことを契機として、より親しまれるにぎわいのある空間へと「桜通」のリニューアルを図り、地域と一体となって事業を進めるため、桜通80周年記念事業実行委員会を設立した(平成28年10月5日)。

本計画は、地域団体の代表等がメンバーとなる幹事会において協議し、実行委員会の承認を経て策定した。

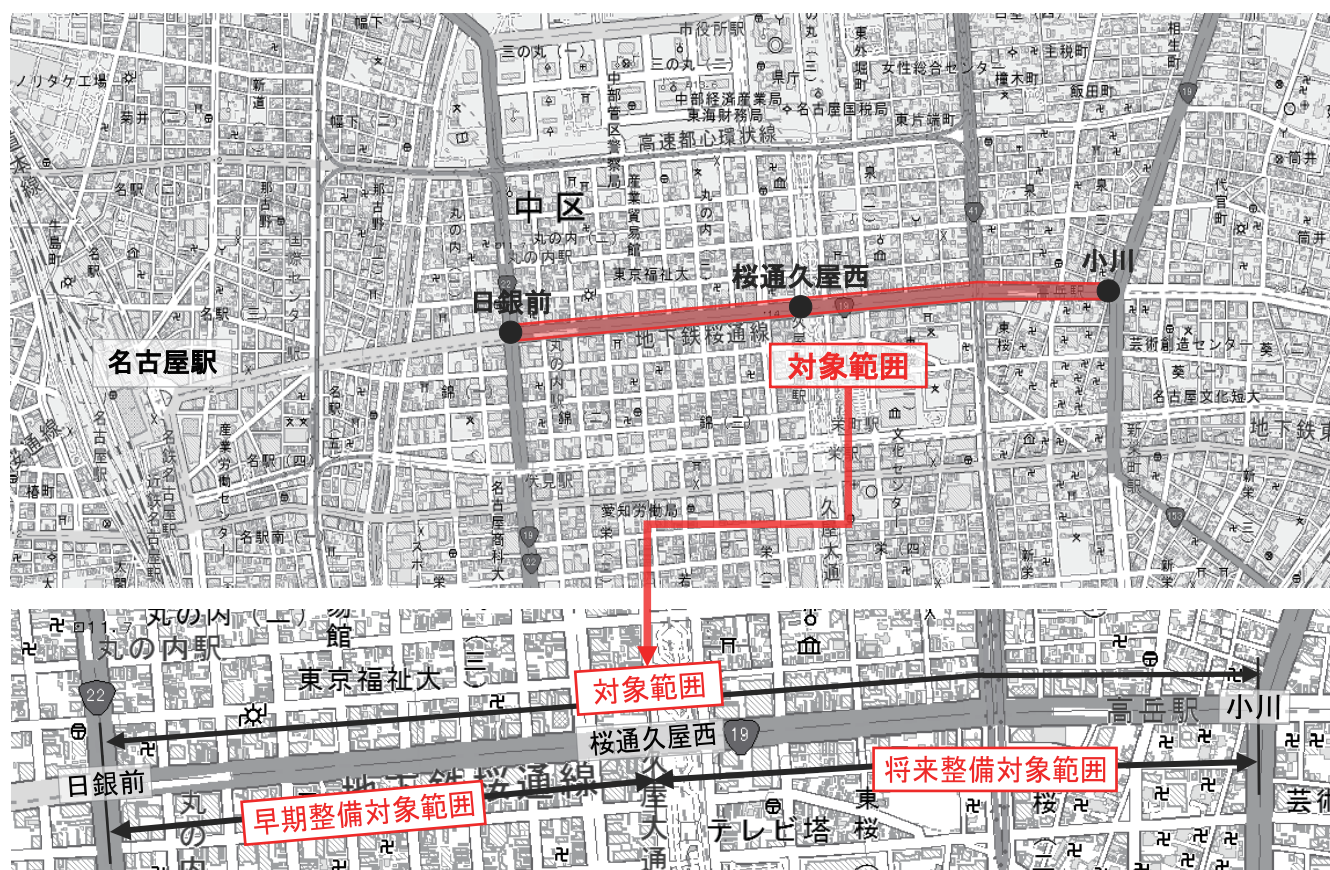
桜通開通80周年記念事業実行委員会

メンバー：名古屋市商店街振興組合連合会、青年会、女性団体等の地域団体代表者や周辺学区代表者等

幹事会

メンバー：有識者、名古屋市商店街振興組合連合会、青年会、女性団体、沿道地域のまちづくり団体等の地域団体の代表者、周辺学区代表者等

事業箇所 位置図



問い合わせ先

桜通開通80周年記念事業実行委員会事務局
国土交通省中部地方整備局名古屋国道事務所

〒467-0833 名古屋市瑞穂区鍵田町2-30

TEL 052-853-7320 FAX 052-853-7334